

60代を中心に延べ38名が「災害履歴・生物多様性」をテーマに語り部に挑戦！

つつる会

活動の目的

- 目的①：災害史伝承を通じた伝承活動の活性化
- 目的②：災害史伝承を通じた伝承主体増加（新メンバー5名以上の活動参加、うち60代は3名以上。大井神社運営継承主体、小中学校・公民館のプログラムの講師等の今後の活躍期待）
- 目的③：地域防災意識啓発（来年度、単位町内会の自主防災組織の立ち上げにも貢献）
- 目的④：水災害史跡と土砂災害史跡散策コースを中心に歴散策コース増加、コース案内者（語り部）増加
- 目的⑤：文化財調査や保存方法の質向上、調査や保存活動者の増加
- 目的⑥：口承技術の質向上、伝承実践者の増加
- 目的⑦：隣接地区活動者や小・中学校、公民館関係者が参加することにより、足守地区全体での歴史文化継承活動や防災活動ネットワークの活性化に貢献

活動の内容及び経過

- 【シリーズ「地域が地域を物語る」勉強会：延べ参加人数175名】
- 2020年11月22日 プレ企画：里山めぐりで自然散策～防災編（参加者36名）
 - 12月20日 第1回：災害伝承編（参加者27名）
講師：立石憲利氏（日本民話の会会長）
 - 2021年1月17日 第2回：生物多様性①動物編（参加者35名）
講師：友延栄一氏（岡山の自然を守る会）ほか
 - 2月11日 第2回勉強会スピノフ企画（参加者3名）
講師：大塚利昭氏（日本野鳥の会岡山県支部）
 - 2月14日 第3回：生物多様性②植物編（参加者40名）
講師：波田善夫氏（植物生態学、岡山理科大学名誉教授）
松畑熙一氏「文明と野生」（岡山大学名誉教授）
吉鷹一郎氏（岡山野生生物調査会）ほか
 - 3月14日 第4回：土砂災害編（参加者34名）
講師：鈴木茂之氏「豪雨」（地質学/岡山大学名誉教授）
西村敬一氏「地震」（自然災害科学・地震/岡山理科大学客員研究員）
- 共催：大井地区連合町内会
後援：岡山福祉交流プラザ大井、岡山市立足守公民館

活動の成果・効果

- 目的①：地域の「災害史」に加え「生物多様性」をテーマにした伝承活動も実施。
- 目的②：新メンバー13名が地域の災害伝活動（語り部活動）に参加。60代：4名、50代：3名、40代：4名、20代：2名。一般参加者として高校生や別途20代の若者の参加もあった。
- 目的③：地域防災をテーマにした勉強会（全3回）に述べ97名が参加。また生物多様性をテーマにした勉強会（全3回）でも、地域の



百田の大榎木/T12土砂災害現場（プレ企画）

災害履歴の語り部実践を平行して実施。

- 目的④：土砂災害史跡散策コースで4回のフィールドワークを実施。7つのポイントで延べ31名が語り部（案内者）に挑戦。
- 目的⑤：第1回講師立石憲利氏に、調査・記録・保存方法のレクチャーを受ける。
- 目的⑥：立石氏が語り部講座を実施。延べ38名（地域災害履歴：31名。地域生物多様性：7名）が語り部に挑戦。
- 目的⑦：小学校長、公民館長、福祉交流プラザ館長が勉強会に参加。【総括】各専門家の丁寧なご協力で、テーマも広がり、語り部体験も多く重ね、若い層の参加もあった。地域資源の再発掘もできた。

今後の課題と問題点

- ◎活動の継続性
弊団体は近く解散予定のため、今回の勉強会で得られた知見・経験を、地域の既存の活動にフィードバックすることを通して、地域活動全体の活性化に資することができるかが課題と考えている。
- 1) 地域：今回の企画を申請するにあたり、地域的な類似活動の相互波及効果を目的に、隣接地区（旧小学校区）で貴財団の助成事業を実施した団体の代表や、社会・人教育施設のコーディネーターに参加していただき事前ワークショップを実施した。しかしコロナ禍の影響で広報対象を大井地区住民に限定せざるを得ず、事前準備が十分に活かされていない。
- 2) 世代：今回の企画の対象者を地域活動に興味のある60代の地区住民としたが20～50代の参加もあった。コロナ禍の影響で恒例イベント等が自粛されるなかで、幅広い年代が継続的に関わられるような地域活動の再構築への必要性を感じている。
- 3) テーマ：今回は「災害」と「生物多様性」をテーマにしたが「教育文化振興」「公共交通」「デジタル対応」「ライフ・シフト」「気候変動」等、多様な課題がある。

- 代表者：三田孝 ●所在地：岡山市北区大井
- TEL：086-295-1043 ●E-MAIL：info@mita-farm.com
- 設立年：2015年 ●メンバー数：30名